



きらきら Eyeランド
JA庄内みどり

安全・安心をお届けします。

平成 22 年 3 月 20 日

グリーンプロジェクト情報 第1号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

**苗半作・・・育苗はあせらず計画的に
移植日→播種日→浸種日を逆算して作業を始めよう！**

平成22年度 水稻育苗作業計画

作業名	作業月日
○塩水選	3月27日～28日
○種子消毒	3月28日～29日
○浸種	3月30日～
○催芽	4月13日～18日
○播種	平坦4月15日～19日, 中山間4月18日～21日
○田植	平坦5月8日～14日, 中山間5月15日～21日

技、其の一 塩水選・品種混入防止に細心の注意を！

※特に塩水選の際には、必ず採種地の確認をして、忘れずに産地・採種地ナンバーを生産記録書に記入しましょう。

品種	塩水選の比重	水10%当たりの目安	
		塩(kg)	硫安(kg)
うるち	1.13	2.1	3.0

☆品種の混入に注意して下さい。

※催芽袋での色分け、名札等でハッキリ確認できるようにしましょう。

☆塩水選後は、水道水で良く洗いましょう。

☆温湯消毒器を使用する方は塩水選をしないで下さい。

技、其の二 種子消毒は確実に行ないましょう！

◎温湯浸法による種子消毒（農薬を使わない安全・安心な種子消毒法です！）

種籾を5kg以内に小分けし、60℃の温湯内で丁寧に湯通しをした後、10～15分間の一定時間、温湯浸漬処理を行ないます。温湯処理終了後は、流水（水道水）で、十分初温度をさげて下さい。（冷却処理）



<ばか苗病の対策>

- 毎年発生がみられる場合、「イチバン」（500～1,000倍液で瞬時浸漬または散布）で、育苗箱の消毒を行って下さい。
- 浸種は日陰で行い、水温を高くし過ぎない（15℃未満）。
- 温湯浸法による種子消毒の場合は、特に浸種中の水交換を頻繁に行う（3日毎）。
- 育苗培土や苗床に籾殻を使用しないで下さい。また、被害ワラや籾殻を育苗施設周辺に放置しないで下さい。（腐熟が不十分な堆肥を含む。）

◎低濃度長時間処理法

スポルタック乳剤1,000倍（100cc/100%）または、ヘルシードTフロアブル200倍（500cc/100%）の薬液に24時間浸漬し、その後浸種します。

◇苗立枯細菌病対策

テクリードCフロアブル200倍（500cc/100%）の薬液に24時間浸漬し、2～3日間ひろげて陰干し、その後浸種します。

（注）使用後の廃液は周辺環境に影響をおよぼさないよう適切に処理するようお願いします。

技、其の三 浸種は温度に注意しましょう！

品種名	積算温度	浸種日数	
		水温10℃	水温8℃
はえぬき・ひとめぼれ・つや姫 コシヒカリ・つくばSD1号	120℃以上	12日間	15日間

①浸種期間中は、水温を測って、確実に積算温度を確保しましょう。

②浸種時の水量は、種子量の2倍以上が基本です。（浴比 1:2以上）

③薬剤消毒種子の場合、薬剤効果安定の為、浸け始めから3日間は水を替えないで下さい。その後は、2～3日おきにこまめに水の交換を行いましょう。

④水交換の時には、種籾の位置・上下交換も行なって下さい。

⑤温湯種子消毒した種籾は、別の容器を準備し必ず区別して浸種して下さい。

※水交換等については、裏面の「特別栽培米に取り組む方々へ」の内容を厳守願います。

技、其の四 育苗培土・育苗マットの使用は適切に！

①購入培土を使用する場合

透水性・通気性が大きすぎる場合は、下表の資材を混合するなどして保水性・保肥力を改善しましょう。

推奨資材

資材名	容量	pH	参考価格	箱当たり価格
ピートモス（A級）	50リットル	4.6	614円	12.3円
水稻育苗用V床土	45リットル	4.5	1,759円	39.1円

②育苗マットを使用する場合

育苗マットについては、下記の注意点を守り、健苗育成に努めましょう。

1. マットには裏表がありますので育苗箱に入れる場合は、十分確かめて下さい。
2. 播種時（前）にはマットにたっぷり灌水して下さい。（箱当たり約2リットルが目安）
3. 覆土は、（覆土用、肥料入等）やや多めに使用し、根上がりを防止しましょう。
4. マットは保水力が強いので、過湿にならない様、育苗期間中の灌水はひかえめを心掛けて下さい。

③水田土壌を使用する場合

作土部を掘り、床土として利用する。（深すぎて、耕盤まで掘り取らない様に要注意）土塊を過度に乾燥させてしまうと、砕土のとき土が細かくなりすぎ、酸素欠乏など障害を引き起こす事があるので、風乾度合いには特に留意する。また土壌酸度(pH)を必ず確認しましょう。

床土改良のポイント

粘土系土壌の場合……透水性改善のため20%程度のくん炭（完全に炭化したもの）を混合する。
砂壤土系土壌の場合…保水性改善のためピートモス等を混合する。

技、其の五 床土消毒、肥料混和は播種7日前頃から！

①育苗基肥（1箱床土量 約3.2リットル）

施肥例①	サイコ-11号:12g/箱	追肥は2回程度必要
施肥例②	サイコ-11号:8g/箱 + エコロンG 424M100:50g/箱	追肥は不要
施肥例③	稚苗用ロング 323 : 60g/箱	追肥は不要
施肥例④	育苗専用マット（こめパワーマット・軽苗くん）	追肥は2回程度必要

②床土消毒（苗立枯病の予防・ムレ苗予防）[特別栽培米は、使える薬剤について注意！]


床土に、上記の肥料を混合する時に下記の薬剤を同時混和する。

タチガレン粉剤（3～6g/箱）またはタチガレエース粉剤（6～8g/箱）

☆苗立枯細菌病対策としては、カスミン粒剤（床土に30g/箱または、覆土に15g/箱）

技、其の六 正確な温度でハト胸催芽を！

☆上手な催芽は健苗づくりの基本です。

- ①催芽温度は30～32℃とし、催芽の程度はハト胸状態とします。
- ②品種によっては、催芽完了までに要する時間が多少異なりますので、 随時、芽の状況を確認し、90%以上の揃った芽切れで仕上げるようにして下さい。

技、其の七 適正な播種量で健康な苗作り！

☆播種量の基準

	葉齢	育苗日数	乾籾重	催芽籾重	催芽籾量
稚苗	2.5	25	150～180g	180～210g	1.6～1.8合
中苗	3.5	30	80～120g	100～150g	0.9～1.3合

特別栽培米に取り組む方々へ

現在、各地区で温湯消毒作業が進行中です。その後の作業・管理について下記の注意事項を厳守して下さい。（ばか苗病等の発生予防対策としても重要な事項です）

- ①温湯消毒をした種子と、スポルタック乳剤等による薬剤消毒をした種子とは、完全に区別し、別々の容器で浸種して下さい。（催芽も同様に対応して下さい）
- ②温湯消毒後の種子は引き取り後、直ちに浸種するか、日陰で十分乾燥させてから浸種まで保管してください。
- ③浸種期間の水温が15℃以上になりやすい所では防除効果が低下し、ばか苗病の発生を助長しますので、浸種場所・水温には特に注意して下さい。
- ④温湯消毒後の種子は、浸種始めから3日目までに必ず1回水の交換をして下さい。その後は、2～3日おきにこまめに水交換を行なうようにして下さい。
- ⑤育苗箱に明確な目印などをつけて、区別して播種作業を行って下さい。
- ⑥育苗期の殺菌剤等については、地域ごとに特定されておりますので、指定された農薬以外は使用しないよう注意して下さい。
- ⑦微生物農薬を使用して種子消毒を行う場合は、必ず使用方法を確認して下さい。

ポジティブリスト制度を遵守しましょう！！

すべての農薬において残留農薬基準値が設定され、基準値をオーバーすると「生産物の出荷停止・回収」の事後対応ならびに市場の信頼を失うこととなります。

地域の農業者同士の連絡を密にし、決められた農薬の使用方を厳守しましょう。

- ◎ケラの予防対策として、育苗置き床に使用できる登録農薬はありません。波板などの設置による侵入防止策、有孔ポリを敷くなどの対策を行なうようにして下さい。